

コロナ禍以降、4月の家庭訪問が、どの学校でも玄関先訪問になってしまいました。さらには、保護者とも会わない形式の自宅確認（子どもの自宅の位置を確認）のみの学校も増えました。学校にも保護者にも負担軽減という意味合いも後付けされていきました。確かに、働いているので、わずか15分程度の訪問のために休みを取るのはもったいないからですね。とは言え、なんとも寂しい限りです・・・。

私は、それでは、**繋がりの一歩としては弱い**と考えます。たとえ短い時間でも、**膝を突き合わせて話をする**ことは大いに**意味あること**だと考えます。少しでも互いのことを知り、笑顔で話をする時間は、次からの関係づくりにつながるからです。何と言っても、自分の親と教師が仲良くなると、子どもはうれしいものです。

だからこそ、今年度から家庭訪問の形を元に戻しました。短い時間ながらも濃度の高い出会いをしてほしくて元に戻しました。

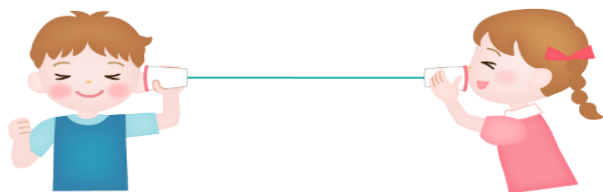


また、今年度は新たに「**1 day 1 call**」（ワンデイ・ワンコール）運動も打ち出しました。「1日に1軒は、保護者に連絡を取って、子どもの頑張りや成長等を伝えていこう。連絡方法は、家庭訪問でも、連絡帳でも、電話でも、ノートの端など何でもよい。とにかく、連絡を密にしていこう！」というものです。（詳しくは、ホームページに掲載している学校経営方針を見られてください。）



これは、**学校と家庭との「共育で（共育）」のために、必要と考えた「学校からのラブコール」**でもあります。

とは言え、大袈裟に構えずに、受け止めていただければと思います。小さい頃にやった糸電話は楽しかったですね。あの延長の感覚で、連絡帳や電話線等で繋がり、**「共育でのパートナー」**になれば幸いです。



ここまで、一方的に私の考えを書き綴ってきましたが、結局、大切にしたいことはこれです。



最後になりましたが、令和7年度の前期前半を無事に終えることができました。保護者の皆様そして地域の皆様のご理解とご支援を賜りながら、本校の教育を充実させることができましたことに、深く感謝を申し上げます。

学校便りでは、私の願いと学校の取組の一端を説明してきました。記したことが十分にできていないところも多々あります。だからこそ、皆様のお声をお聞かせください。ご意見に真摯に耳を傾けながら、一步一步前に進んでまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

明日から、夏休み。子どもたち、そして皆様にとって、事故や病気・ケガのない、楽しく、思い出深い日々になることを願いまして、このお便りの結びといたします。